

福島わかば会の農業に対する考え方

2009年2月12日

福島わかば会 会長 本田 政雄

副会長 丹治 昭治

(有)三扇商事 代表 佐藤 泉

[[福島わかば会の目指す農業]]

『安全で味が良い農産物を生産することを目標として、継続でき、尚且つ、
後継者が育つ、明るい農業を目指す。』

私達、福島わかば会の考える農業は、設立者である佐藤圓治前会長が、永年にわたり推奨し継続してきた事を、尊重しつつ厳粛に思い、安全で味の良い農産物を生産する事を目標として、第一に圃場の土づくり、第二に良質有機醗酵肥料（ぼかし肥料）の施用、そして第三に農薬を極力控えた栽培であると考えております。

■ 圃場の土作りについて ■

腐植に富み、有効土壌微生物が多く繁殖でき、又、通気性・排水性が良く、塩基置換容量（CEC20以上）の高い土を作ることを目標とする。

土づくりの出来た圃場では、施用された有機肥料（ぼかし肥料）の効果が、最大限に発揮された健康な作物が育つのである。

それが、有機農業・特別栽培農産物と結びつくと考える。

モンモリノナイト系粘土鉱物の投入は、保肥力・土壌の団粒構造化を高め、ミネラルの補給にもなるので推進される。

腐植（堆肥）の投入にあたっては、良質の素材を使用したものを施用する、家畜排泄物や畜産廃棄物については、醗酵期間、切り返し回数等に注意して使用すること。

■施用肥料について■

《 ぼ か し 肥 料 》

【醗酵菌＋米糠＋菜種粕＋骨粉＋粘土鉱物＝味の良い作物】

動物粕（骨粉・漁粕等）と、植物粕（菜種粕・大豆粕・米糠等）を、醗酵菌で一次醗酵させたぼかし肥料の施用を基本とする。

化学肥料は、極力使用せず健康な作物の栽培に努める。

土壌分析などによって、常に圃場の土壌状況を把握、観察し、過不足なく窒素・リン酸・加里・カルシウム・微量元素等がバランス良く供給されるよう、ぼかし肥料の種類・割合を工夫する事が必要である。

作物の病気や害虫に対する抵抗力、農産物の品質、又、地域環境（河川の汚染・飲料水への影響）等に悪い影響を及ぼすので、過剰な施用は避けるように注意すべきである。

■病虫害防除について■

《 拡 大 バ イ エ ム 》

【酵素＋黒砂糖＋米酢＋焼酎＝安全な農産物】

土づくりが出来た圃場に育った作物は、病虫害に対する抵抗力が大きいのである。

病虫害予防には、輪作や間作、クリーニングクロップの栽培などの耕種的防除法や、太陽熱処理などの物理的防除、微生物資材の投入や天敵の投入など生物的防除を取り入れる事を奨める。

化学合成剤による土壌消毒は禁止される。又、栽培圃場での除草剤の使用も禁止される。

病虫害の発生が予想される場合は、土壌養分や水分のバランスに注意しながら早期に対策を講じる必要がある。

米酢や焼酎、拡大バイエムの葉面散布、薬用植物抽出エキス等の散布が望ましい。

化学合成農薬は極力使用を控える。

◇私達は、空気、水、山、緑、自然を守ります◇

化学肥料・化学農薬を使用すれば、大気汚染、河川の汚染、地下水の汚染、山林等の破壊、いろいろな観点からも、使用を極力減らしたいと考えています。

以上、福島わかば会会員一同は、有機栽培・特別栽培農産物に対する認識を大切にし、これからも益々努力・勉強し、安全で味の良い農産物を作る為に、取り組んで参りたいと考えています。